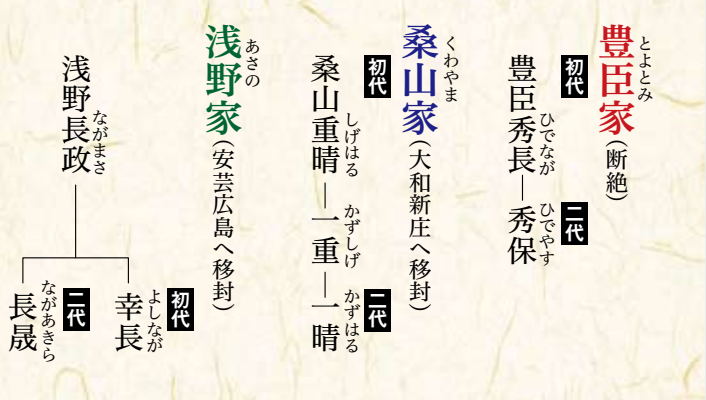




史跡 和歌山城

天正13年(1585)、羽柴(豊臣)秀吉が紀州を平定し、弟の秀長に命じて岡山(虎伏山)の峰に創建したのが和歌山城。藤堂高虎らが普請奉行を勤め、高虎が手がけた最初の本格的な近世城郭といえる。秀長は大和郡山を居城としたため、桑山重晴が城代を勤めた。秀長家が途絶えると、桑山氏が城主となる。豊臣・桑山時代に山嶺部分や岡口の整備に取り組んだ。

慶長5年(1600)関ヶ原の戦いの後、浅野幸長が37万6千石の領主となり、城の大規模な増築を行なった。連立式天守閣を建て、現在の本丸・二の丸・西の丸に屋敷を造営。大手を岡口門から一の橋の門に変え、本町通りを大手筋として城下町を整備した。

元和5年(1619)、徳川家康の十男・頼宣が55万5千石を拝領して入国し、御三家紀州藩が成立する。二の丸を拡張するため西内堀の一部を埋めたて、南の丸・砂の丸を内郭に取り入れ、ほぼ現在の和歌山城の姿となった。紀州徳川家は、「南海の鎮」として西日本を監視する役割を担い、八代将軍吉宗、十四代将軍家茂を輩出した。

明治4年(1871)の廃藩置県により、和歌山城は陸軍省の管轄となる。明治34年和歌山公園として一般に公開され、昭和6年(1931)に史跡に指定された。

名勝 西之丸庭園(紅葉溪庭園)

江戸時代初期に作庭された池泉回遊式の城郭庭園。虎伏山の溪地形を利用し、立石として緑色片岩(紀州青石)を多用する。御舟石のある上の池だけでなく、柳島を浮かべて内堀を池に見立てている。昭和60年(1985)には、国の名勝に指定。紅葉が見事で、紅葉溪庭園とも呼ばれ、毎年11月末から12月初旬に見ごろをむかえる。

- 西之丸庭園・御橋廊下のご案内
- 入園料／無料
 - 開園時間／午前9時～午後5時
 - 休園日／12月29日～12月31日(御橋廊下は1月3日まで休)



鳶魚閣と紅葉

花だより

- 2月下旬……………スイセン(二の丸他・約1万本)
- 3月下旬～4月上旬……………サクラ(城内・約600本)
- 4月……………ヤマブキ(鶴の溪)
- 4月下旬……………ボタン(二の丸・約590本)
- 4月下旬～5月上旬……………ツツジ(南堀跡・約8,000本)
- 6月上旬……………アジサイ(鶴の溪・約170本)



■天守閣のご案内

- 入館料／大人(高校生含)410円 小人(小中学生)200円
- ※団体割引あり・土曜日は小人無料
- 開館時間／午前9時～午後5時30分(入館は午後5時まで)
- 休館日／12月29日～12月31日

■交通

JR和歌山駅、南海和歌山市駅からバスで「公園前」下車

■お問い合わせ

- 和歌山城天守閣
〒640-8146 和歌山市一番丁3番地 ☎073(422)8979
- 公益財団法人 和歌山市文化スポーツ振興財団
〒640-8227 和歌山市西汀丁36番地(和歌山商工会議所1階) ☎073(435)1152
- 和歌山城整備企画課
〒640-8511 和歌山市七番丁23番地 ☎073(435)1044

このパンフレットは平成25年度「地域の特性を活かした史跡等総合活用支援推進事業」の補助金を受けて作成しています。



文化庁

史跡 和歌山城

Wakayama Castle



和歌山城登閣記念スタンプ



徳川家



紀州徳川家初代 徳川頼宣
「南海の龍」と呼ばれ、紀州徳川家の基礎を築く。

紀州徳川家十代 徳川治宝
風雅を愛した「数寄の殿様」。紀州の文化発展に寄与。

てんしゅかく
天守閣

浅野家が虎伏山の西の峰に、黒板張だが、ほぼ現在と同様の天守閣を築造。三層の大天守から時計回りに多門、天守二之御門(楠門)、二之御門櫓、多門、乾櫓、多門、御台所、小天守へと続く連立式天守だった。寛政10年(1798)十代藩主徳川治宝により白壁の白垂の天守となるが、弘化3年(1846)の落雷で焼失。御三家ということで特別に認められ嘉永3年(1850)にほぼ元のまま再建される。昭和10年(1935)国宝に指定されるが、同20年7月9日の和歌山大空襲で焼失。戦後市民からの要望もあり、昭和33年に鉄筋コンクリートで復元された。

おおてもん
大手門

大手門とは城の内郭に入る正面の門。浅野期の途中から大手として機能した。当初は市之橋御門とよばれていたが、寛政8年(1796)に大手門及び一の橋と改称される。明治42年(1909)5月に倒壊するも、昭和57年(1982)3月に再建。翌年3月には一の橋が架けかえられた。

おかぐちもん
岡口門

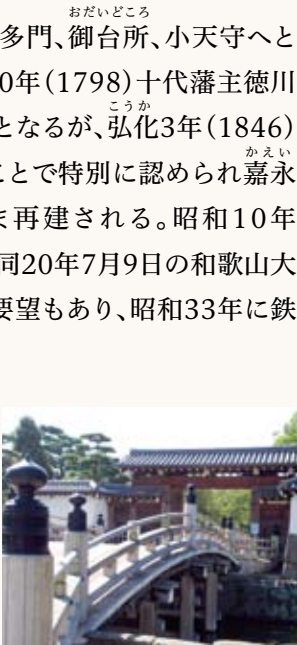
築城時は大手門だったが、浅野期の途中から搦手門(裏門)となる。現在の門は元和7年(1621)、徳川家が建造した二階建ての門である。

岡口門は空襲でも焼けずに残った旧藩時代の数少ない遺構で、北側の土塀とともに昭和32年(1957)に重要文化財に指定。

土塀の狭間(さま)



焼失前の天守閣



焼失前の大手門



岡口門



わ か や ま ご じ ょ う な い そ う お ん え ず
和歌山御城内惣御絵図
(和歌山県立図書館所蔵)

紀州藩の作事方が作成した和歌山城内郭にあった建物の精密な平面図。江戸後期の和歌山城の姿がよく分かる絵図である。虎伏山上の西峰に天守郭、東峰に本丸御殿、北麓に二の丸、御橋廊下を西に渡った所が西の丸、その西と南に砂の丸、南麓に南の丸が配置されている。原因は寛政期(1800年頃)の作成であるが、建て替えの度ごとに新しい図面を別の紙に描き、切り抜いて原図の上に張って行く「貼絵図」の方式をとる。天守閣の大天守を中心に二十四方に方位を示し、現在の測量図と大体一致する。天守閣は落雷で焼失した後に再建されたため、その部分を切り張りしており、その下には旧天守閣が描かれている。



に まる
二の丸

徳川家が藩主の時代、本丸御殿が山上にあったが、不便で手狭なため、二の丸に殿様の居館や藩の政庁が置かれた。二の丸の機能は、藩の行事の場である表、殿様の公邸である中奥、殿様の私邸で、奥女中の生活の場である大奥の三つに分かれていた。



おはしろうか
御橋廊下

御橋廊下は、殿様とお付の人、奥女中が二の丸と西の丸を行き来するためにかけられた徳川期の橋である。そのため外から見えないように壁と屋根が設けられ、部屋のような造りになっている。斜めにかかる廊下橋としては全国的にめずらしい。平成18年3月に復元。



史跡和歌山城の石垣

和歌山城内の石垣は時代によって様々な積み方がされ、石の種類も異なる。



のつらづ
野面積み

自然石を切り出してそのまま積んだ勾配の緩やかな石垣。岡公園や和歌浦等で採れる緑色片岩(紀州青石)を中心とした結晶片岩で、主に豊臣・桑山期。



う こ は
打ち込み接ぎ

石の表面を粗く加工して「接ぎ」合わせて積んだ石垣。友ヶ島等の石切場で採れる砂岩(和泉砂岩)で、浅野期と徳川期に築造。刻印のある石材は浅野期に多くみられる。



刻印



き こ は
切り込み接ぎ

石材を精密に加工して積んだ勾配の急な石垣。熊野の花崗斑岩で、徳川期。伏虎象の前や高石垣の角(算木積部分)等)に使用。